

原発 そこが問題だ

第9号

2022年4月5日

原発反対の会・吹田

wasser861.a@pure.zaq.jp

ロシア軍によるウクライナの原子力施設への武力攻撃・占拠に抗議する

原発稼働状況（4月1日まで）



出所：日本原子力産業協会 <https://www.jaif.or.jp>

（最終閲覧 2022年3月9日）

ロシア語表記からウクライナ語表記に変更がありましたが、右表も上図の表記に統一しています。

発電所	号機	2/24	2/26	2/27	3/4	3/27	3/30
ザポロジエ	1			停止	停止	停止	停止
	2				停止		
	3				停止	停止	停止
	4						
	5		停止	停止	停止	停止	停止
ロブノ	6		停止	停止	停止	停止	停止
	1	停止	停止	停止	停止	停止	
	2						
	3						
フメルニツキ	4						
	1						
	2	停止	停止	停止	停止	停止	停止
南ウクライナ	1						
	2						
	3		停止	停止	停止	停止	停止
合計出力		10,870	7,671	7,040	5,720	7,010	？
稼働基数		13	10	9	7	8	9

注：1. 空白欄は稼働中、侵略前は13基が稼働（ロブノ1号機とフメルニツキ2号機は定期検査中のため停止）

2. 15基すべてソ連製（営業開始1981～2006年）

出所：原子力資料情報室 <https://cnic.jp/41496>

（最終閲覧 2022年4月1日）表の一部を掲載

1. ザポロジエ原発に関する情報

2月28日

・ロシア国防省報道官はザポロジエ原発を占拠したと発表。ウクライナ原子力公社は占拠されておらず、フェイクニュースだと反論。

3月2日

・ロシアは3月1日付のIAEA（国際原子力機関）事務局長あての文書で、ザポロジエ原発周辺を軍が制圧したと通知した。一方、ウクライナ国家原子力規制局は原発は正常に稼働していると述べた。

3月4日未明

- ・ウクライナ緊急事態庁および原子力規制当局によれば、ザポロジエ原発ではロシア軍が攻撃開始し、1号機（保守点検中）が攻撃を受け、また原子炉からは独立した訓練棟で火災が発生したが、鎮火したという。4号機だけが稼働中とのこと。後に2号機も稼働。
- ・IAEA グロッシー事務局長の記者会見によれば
ロシア軍に制圧されたが、原子力発電所は通常のスタッフによって運転が継続され放射性物質の放出はない。原子炉6基の安全システムにも影響はない。

3月9日

- ・ウクライナ原子力公社の SNS は3月9日現在、723,000人以上に電力が供給できていないという。

2. チェルノブイリ原発に関する情報

2月24日

- ・ベラルーシ側から進攻したロシア軍がチェルノブイリ原発を占拠。空間線量が上昇。その後モニタリング用ウェブページがダウン。

3月2日

- ・IAEA はチェルノブイリ原発の状況について、作業員は2月24日以来、「監視」の下、核物質に関する作業以外の業務に従事していると報告。

3月9日

- ・ウクライナ国家原子力規制局によれば、チェルノブイリ原発に接続する送電線がロシア軍の攻撃により停止した結果、チェルノブイリ原子力発電所に送電できなくなった。

3月10日

- ・ロシアのタス通信は、国防副大臣の発言として、チェルノブイリ原発の外部電源喪失はウクライナ側の発電所と送電線への攻撃によるもの、非常用ディーゼル発電機はロシア側技術者が速やかに稼働させたものと発表。また、エネルギー副大臣がベラルーシ側からの送電により電力は復旧したと述べたと報じている。

4月1日

- ・3月31日国家専門企業チェルノブイリ原発、SNS で午後8時ころロシア軍が撤退したことを正式発表。アクセスルートは、チェルノブイリの管理下にある。管理棟に隣接する立ち入り禁止区域内で戦車などの軍用重機がチェルノブイリ市街へ移動しているのが確認された。
- ・IAEA グロッシング事務局長は、ウクライナ当局からの報告として、ロシア軍はチェルノブイリ原発の支配権を文書でウクライナに移譲し、ベラルーシ側に撤退を始めているという。

3. 放射性廃棄物管理施設に関する情報

2月26日

- ・ハリコフの放射性廃棄物管理施設の変圧器が損傷。放射線量の上昇も報告されていない。

2月27日

- ・ロシア側の攻撃がキエフの放射性廃棄物管理施設に着弾。建物に被害はなく、放射線量の上昇も報告されていない。

（以上、「原子力資料情報室」「日本原子力産業協会」より、最終閲覧 2022 年 4 月 1 日）

4. まとめと評価

- ①情報が様々ありますが、A) チェルノブイリ原発が2月24日、ロシア軍によって占拠（制圧）されたこと、B) ザポロジエ原発が3月4日、ロシア軍によって制圧されたこと、を前提として評価します。

IAEA には3月31日チェルノブイリ原発で、高線量被ばくを受けたロシア兵がチェルノブイ

リ原発周辺からベラルーシの放射線関連の医療施設に運ばれたとの報告があり（未確認）、また上記のように3月31日ロシア軍が撤退したという報道がありますが、被ばくとの関連性は不明です。

②日本の国会議員（国民）へのゼレンスキー大統領の演説を受けて

核兵器・原発の怖さ、平和についての部分を中心に

ゼレンスキーさんの演説において、平和と復興へ向けて日本に期待する根底にはウクライナの原子力が電力シェアの54%（15基）という原発大国であることへの反省が不明ですが、日本は福島第1原発過酷事故までは54基という原発大国であったし、再び原発大国になろうとし、核兵器を持ちたがっている日本への警告があると受けとめました。

ゼレンスキーさんは、チェルノブイリ原発の占拠にふれ「ロシアは核物質の処理場を戦場に変えた」と語りました。戦場ではなくても、福島は廃炉実現もいまだに見通せません。また、原子力規制委員会は東京電力柏崎刈羽原発の6, 7号機の安全審査を通過させたのですが、2021年6月、テロ対策などの安全対策工事が89件も実施されていないことが明らかになりました。東電は2007年の中越沖地震による柏崎刈羽原発事故（海底活断層の隠ぺいなど）、福島第1原発過酷事故、そして今度は3回目の「想定外の」事故を起こすのでしょうか。もう「想定外」は許せません。この意味でも、すべての原発とりわけ柏崎刈羽原発の再稼動を許すわけにはいきません。

なお、ウクライナは原発大国ですが、全部ソ連時代に着工したもので、考慮すべき点があります。どのようなエネルギー政策をとってきたのか分かりませんが、今後に注目したいと思います。

③上の情報から、未確認ですがチェルノブイリで何らかの事故か事件が起こったようです。高線量被ばくを受けたのが事実とすれば、ロシア兵士が積極的に放射性物質を放出したのか、操作を誤って漏出したのかが考えられます。いずれにしても、放射性物質を使おうとする可能性があったと思われます。現在、メディアではロシアによる核兵器や生物化学兵器の使用ばかり話題になっていますが、チェルノブイリ原発の占拠（2月24日）、ザポロジエ原発の制圧（3月4日）直後以外は原発の危険性はあまり問題にされていません。

1981年6月7日イスラエル空軍機が建設中のイラクの原子炉を爆撃し、破壊させました。幸い核燃料は未装荷で、大きな放射能災害にいたらなかったが、もし完成していたら核戦争なみの惨事になるところでした。爆撃でなくても、放射能を放出、漏えいすることはそれほど困難ではありません。福島第1原発はもちろん柏崎刈羽原発事故でも燃料プールからの放射性汚染水の放出が起こったし、現に上記チェルノブイリで起こったかもしれません。またこれからロシア軍が起こすかもしれません。まさかウクライナが起こすとは考えられないが、ロシアがウクライナの仕業にするかもしれません。

④一部の日本人は核兵器を持ちたがっています。

原発ももちろん再稼動を増やそうとしています。戦争にならなくても、福島第1原発過酷事故で、東北だけでなく関東まで住めなくなる現実的可能性があったのです。これはにせの情報ではありません（福島原発事故独立検証委員会『調査・検証報告書』2012年参照）。被ばく労働者たちの命がけの献身的奮闘によって食い止められたことを忘れることはできません。福島以外でもJC0（核燃料施設）では2人の労働者が、臨界事故で被ばくし原爆にうたれたような無残な姿で亡くなりました。また、事故が起こらなくても、日本でこれまで1,000人以上の被ばく労働者が命を奪われてきたという研究もあります。

核抑止など役に立ちません。原発は安全ではありません。

スタンディングアピールに参加下さい（JR千里丘駅東口・毎月11日17時～）